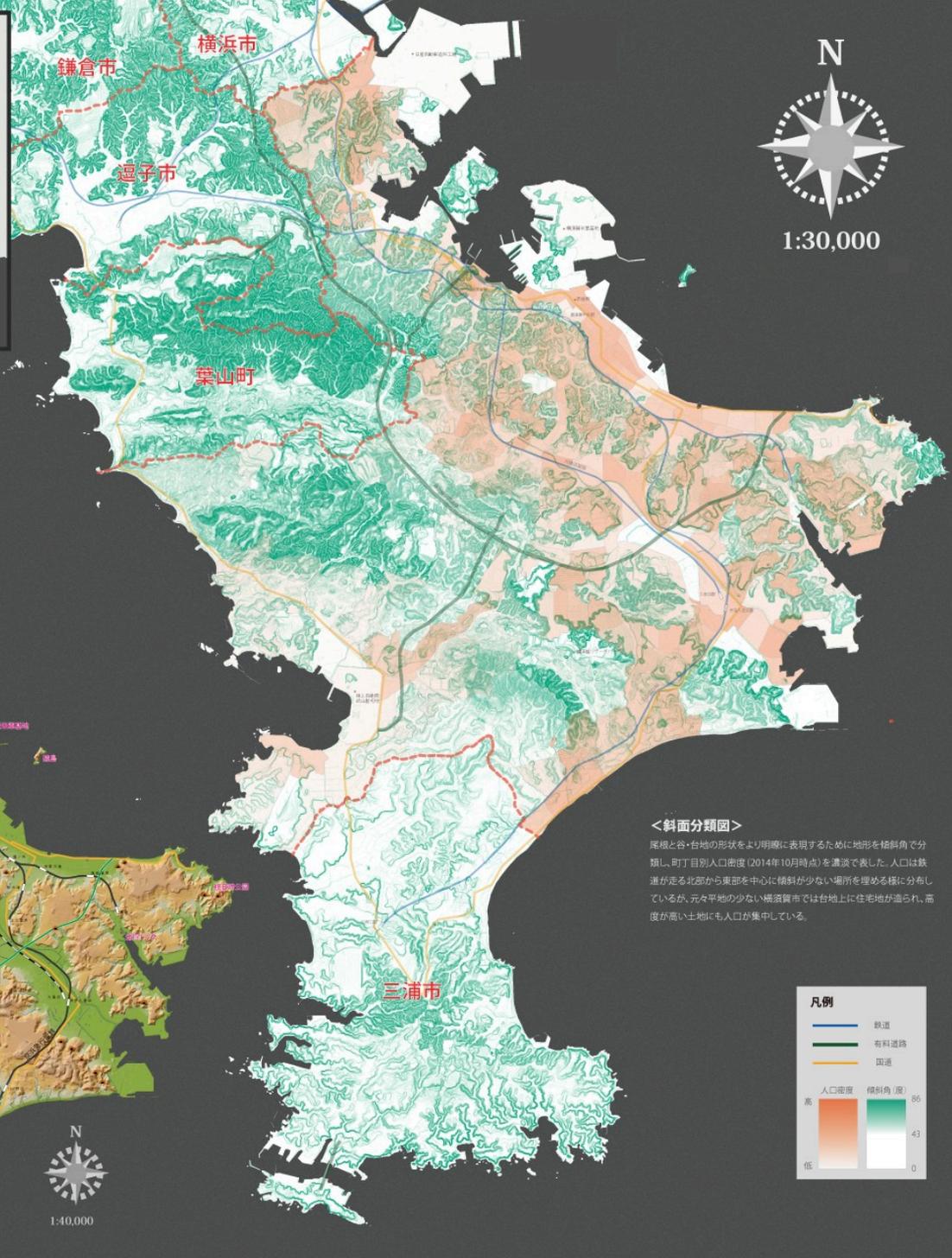


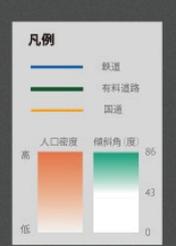
凸凹地図 & 斜面分類図でみる横須賀市

— “人口減少問題” と地形との関係について —



<凸凹地図>
横須賀市の交通、主要施設等を地形の起伏と共に表現しつつ、主要トンネルの位置を示した。今回の調査では54本のトンネルを確認したが、歩行者用や鉄道用を含めると更に数十本のトンネルが存在する。

<斜面分類図>
尾根と谷・台地の形状をより明確に表現するために地形を傾斜角で分類し、町丁目別人口密度(2014年10月時点)を濃淡で表した。人口は鉄道が走る北部から東部を中心に傾斜が少ない場所を埋める様に分布しているが、元々平地の少ない横須賀市では台地上に住宅地が濃れ、高度が高い土地にも人口が集中している。



“日本一トンネルが多い街”横須賀市

三浦半島の中心に位置する横須賀市は「日本一トンネルが多い街」と言われている。特に京浜急行線や国道16号が走る北東側の地域は、谷が山地や丘陵に入り組むように刻み込まれている。いわゆる“谷戸”の地形をしており、市内のトンネルの多くはこの地域に集中している。この地形は、この地がかつてリアス式海岸のような入り江であったために造られたものであり、三浦半島には同様な谷戸地域が複数存在している。

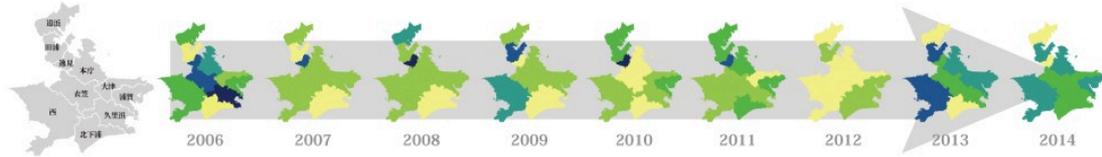
かつて軍港都市であった横須賀市は、現在の横須賀米軍基地がある地域に横須賀海軍工廠が存在し、大量の物資を運びこむ必要があった。急峻な地形を越えることを選択するために多くのトンネルが造られたことが、北東の海岸側に多いトンネルの分布から想像できる。



京浜急行線・進見駅より撮影。トンネルの上部まで住宅が建てられ、急崖に沿って細い階段が設置されている。車輛が侵入できない場所も多く、谷戸地域では「空き家」の増加が深刻となっている。

地区別前年比人口増減率

市域全体を行政単位で100の地区に区分。総数取組統計(町丁目別世帯数および人口)(住民基本台帳登録人口を元に作成)を使用し、その地区では前年と比較して人口が何%変化しているかを表した。2011年から2012年の間に全体で人口が増加しているのは、2012年7月に外国人住民も住民基本台帳制度が適用されたためと考えられる。



横須賀が直面する“人口減少問題”と対策

人口の減少は全国的な問題だが、横須賀市ではその傾向が特に強く、2013年には転出超過数が全国で1位となっていました。地域毎に人口推移を見ると、いわゆる“谷戸地域”である北部の地区で減少率が高い。平地の面積が少ない東部の地区も年々減少を続けています。一方で、北岸の地区(旧家)と南岸の地区(北三浦)は人口が増加している年が他の地域と比べると多い。この2地区は付近に働く場所があるという点が共通しており、追浜地区には沿岸付近に日産工場を始めとする工業地帯、北三浦地区には多くのICT企業が進出する横須賀リサーチパークが存在している。

谷戸地域の人口減少の対策として、横須賀市では谷戸地域にICT企業を集積させて地域経済の活性化を図るという「ヨコスカバレー構想」の取り組みを継続している。この名称は「横須賀のシリコンバレー」を造るという意味に由来する。“働く場所があるか否か”が人口増減に影響を及ぼすことは近年の都心の人口増加傾向からも明らかだが、「ヨコスカバレー構想」の取り組みでは地形的に厳しい条件を持つ谷戸地域のイメージをどのようにプラスの方向へ働きかけていくかが重要な課題と思われる。

使用ソフトウェア
・ArcGIS 10.2
・ArcGIS Spatial Analyst

使用データ
・国土院提供：基礎地図情報 縮尺1:25,000、数値標高モデル5mメッシュ
・東京地図研究社 Map Package
・横須賀市：横須賀市統計書 町丁目別世帯数および人口データ(2006～2014年)
・総務省統計局：平成22年国勢調査(小地域)

参考
横須賀市ホームページ <https://www.city.yokohama.kanagawa.jp/>

この地図の作成に当たっては、国土院提供の承諾を得て、開発発行の基礎地図情報を使用しました。(承諾番号：平27第1、第115号)